KIORITZ

取 扱 説 明 書

共立ウッドチッパー

KCM90

警告
ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。 取扱説明書の指示内容を守ってください。 守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

No.10709010200

まえがき

共立ウッドチッパーをお買い上げいただき、ありがとうございます。

本機を快適かつ効果的に取扱いいただくためには、毎日の作業点検と定期的な点検整備が大事です。人間でいえば健康診断のようなもの、機械をいつも最良の状態にし、事故や故障を未然に防ぐことが大切です。日頃から義務として、点検を怠らないようにしましょう。

また、ちょっとした故障でも早期発見するよう心がけ、大きな故障にならないように整備して下さい。機械の調子が悪い時は、無理に使用せず、お買い上げいただいた販売店にお気軽にご連絡下さい。その際、『本機型式と機体番号』を合わせて、ご連絡下さい。

『本機型式と機体番号』はフレーム後部のラベルに記載しています。

なお、品質・性能向上および、その他の事情で部品の変更を行うことがあります。その際、取扱説明書の内容および写真、イラストなどの一部が本機と一致しない場合がありますので、予めご了承ください。

目　次

危険防止のために…… 1

ラベルについて…… 3

本機の使用目的・主要諸元…… 6

各部の名称…… 7

運転を始める前に！ …… 8
始業点検 …… 9

上手に運転するには（1） …… 10
エンジンの始動のしかた…… 10
発進のしかた…… 12
停止のしかた…… 12
変速のしかた…… 13
旋回のしかた…… 13
トラックへの積み降ろしのしかた…… 14
ロータクラッチの入切のしかた…… 15
送りローラ操作のしかた…… 16
非常停止のしかた…… 16
シュータの固定と排出方向…… 17

上手に運転するには（2） …… 18
チッパナイフの反転・交換…… 18
受刃の反転・交換…… 19
ナイフの調整…… 20
粉砕作業の注意点…… 21
つまり防止の方法…… 21
噛みこみの解除のしかた…… 22
ひっかかりの除去のしかた…… 22

定期の点検・整備をするには…… 23
オイル交換…… 23
走行クラッチ…… 24
サイドクラッチ…… 24
駐車ブレーキ…… 25
ロータクラッチ…… 26
チェーン…… 27
クローラ…… 28
シュレッダーナイフ…… 29
シュレッダーナイフ軸…… 29
エンジン…… 30

給油・注油するところ…… 33

締め付けするところ…… 34

作業後の手入れ／長期保管…… 35
作業後の手入れ…… 35
長期保管…… 36
注意…… 36

消耗部品一覧表…… 37

トラブルシューティング…… 38
エンジンに関するトラブル…… 38
送り制御に関するトラブル…… 39

万一の事故に備えて…… 40

お客様へ…… 41

危険防止のために

本書及び本機では、危険度の高さ(または事故の大きさ)にしたがって、警告用語を以下の様に分類しています。以下の警告用語が持つ意味を理解し、本書の内容(指示)に従ってください。

危　険
差し迫った危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う場合に使用されます。
警　告
潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う可能性のある場合に使用されます。
注　意
潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、中･軽症を負う場合に使用されます。また、本製品に物的損害が発生する場合にも使用されます。

注　意
1. この取扱説明書は、いつでも読めるように、紛失、汚損の恐れのない、すぐに取り出せる所に必ず保管して下さい。
2. この取扱説明書が損傷により読めなくなった場合、紛失した場合は販売店より新しく取扱説明書を購入し、常に参照できるように保管して下さい。
3. この取扱説明書で解説している機械を貸与する場合は、借りて作業をする者に、この取扱説明書を読ませ、十分な指示、訓練を行った後、この取扱説明書とともに機械を貸与して下さい。
4. 製品を譲渡する場合は、この取扱説明書を製品に添付して下さい。

注　意
1. 本機を運転する者は、本機の取扱説明書をよく読み、理解してから運転すること。
2. 取扱説明書が損傷や紛失により読めなくなった場合は、販売店により新しい取扱説明書を購入し、常に参照できるよう保管すること。
3. ラベルが損傷やはがれて読めなくなった場合は、販売店より新しいラベルを購入して貼り替えること。

1. この取扱説明書をよく読んで機械をよく知るようにして下さい。不馴れな機械を運転すると事故につながります。
2. 取扱説明書でいう機械の「右」及び「左」、「前」及び「後」はオペレータが機械の作業位置にいることを想定して意味しています。
3. 機械を子供に運転させないで下さい。また大人でも適切な訓練を受けずに運転させないで下さい。
4. 作業時にはヘルメット、安全靴、保護メガネ、防音保護具（耳栓）、保護手袋、長袖、長ズボンを着用して下さい。飲酒時や過労ぎみの時、及び病気で体調不良の時は、運転しないで下さい。
5. 運転は日中または十分な照明のあるときに限定して下さい。
6. 傾斜地での設置、作業は絶対しないでください。設置は平坦地にしてください。
7. 部品が変形した状態、または部品が欠品になっている状態で、機械を絶対に運転しないで下さい。
8. 改造は一切してはいけません。
9. この機械を公道でけん引する事は出来ません。
10. けん引をする場合は、けん引を行なうに十分な駆動力と制動力を持った車両を使用して慎重に行なって下さい。
11. ユニック等で本機をトラックなどへ積み降ろしを行う場合は、トラックを平坦なところに停車し、駐車ブレーキと車止めをして、バランスに気を付け転落しないように十分注意して下さい。
12. エンジンを始動させるときには必ず、オペレータはすべての駆動装置を切ってから行って下さい。

(1) エンジンを始動させる前にエンジンの取扱説明書をよく読んでエンジンについて精通しておいて下さい。

(2) 誰も人を付けないで機械を放置して置くときは、次のことを必ず行って下さい。

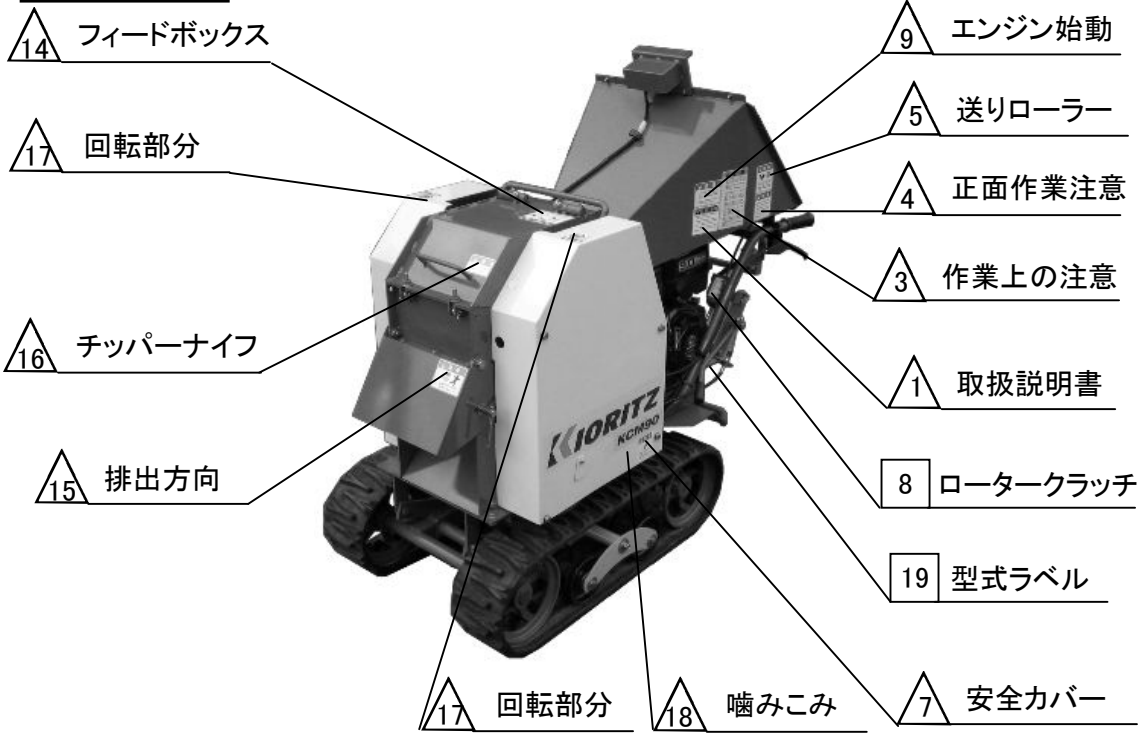
① ロータクラッチレバーを「切」位置にします。
② 走行クラッチレバーで「下」位置にします。
③ 燃料コックを「閉」位置にします。

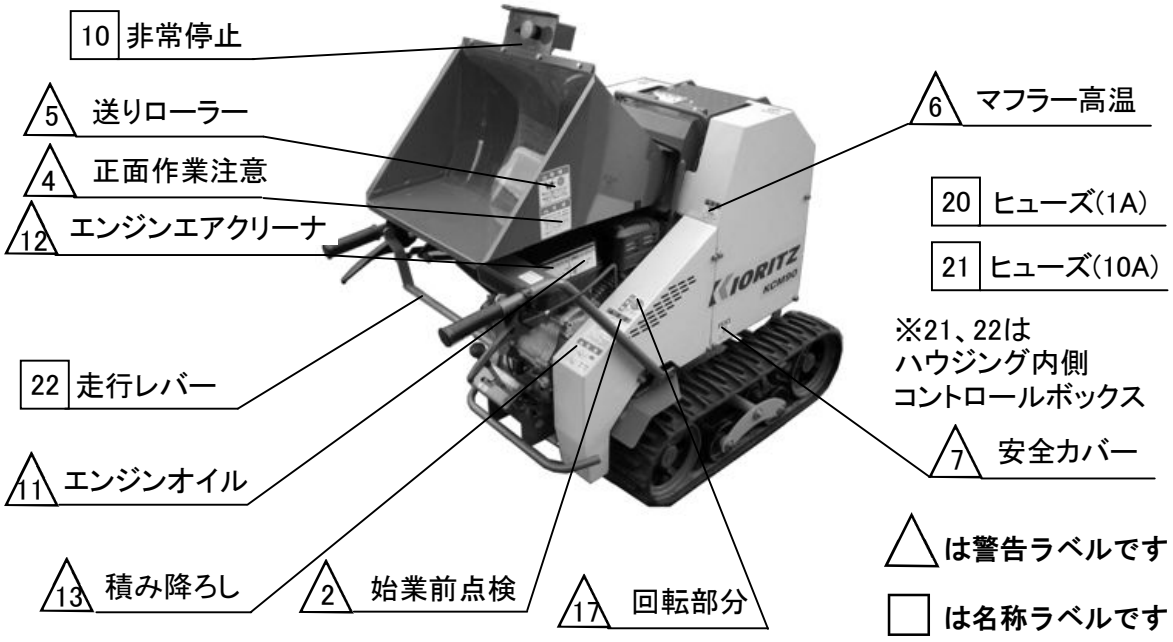
13. 平坦で危険のないところで機械の操作の練習を行い、操作に習熟して下さい。
   (1) エンジンの始動、停止とスロットルレバーの調整
   (2) ロータクラッチの入切のしかた
   (3) 送りローラ操作のしかた
   (4) 正送り非常停止のしかた
   (5) 走行(前進･後進)、停止、旋回のしかた
   (6) 変速のしかた
14. 作業は２人以上で行い、単独では行わないようにしてください。
15. 投入作業は、１人にて行なって下さい。材料の形状によっては、投入する際、材料が暴れたり、投入口から粉砕物の破片が飛び出してくることがありますので、投入口の正面に立たずに、脇に立って作業を行なって下さい。
16. 作業時、エンジン停止直後のマフラ及びその周辺は、高温の為触れないよう十分注意してください。
17. 粉砕された材料は、シュータより勢いよく排出されますので事故につながる可能性があります。作業にかかる前に、シュータの排出方向を定め、固定ハンドルをしっかり締めてから作業を開始して下さい。
18. ほこりや塵がたちやすい場所での作業時は、作業前に、必ず作業場付近に散水してから作業して下さい。屋内で作業を行う場合は、ドアや窓を開け十分な換気を行って下さい。排気の一酸化炭素は猛毒です。
19. 作業中の点検はエンジン停止し、回転部分が完全に止まってから行って下さい。
20. 作業中は、各部点検カバー・窓は絶対に開けないで下さい。
21. フィードボックス･送りローラ取付部に直接触れないようにして下さい。
22. ひっかかって、きちんと下がらない場合は、角材･棒等で押して、解除してください。
23. 停止中、運転中にかかわらず、送りローラに触れないようにして下さい。
24. 作業終了後の点検の際は、必ずエンジンを停止し、ロータなどの回転部が完全に停止したことを確認してから行なって下さい。
25. 整備を行なうときは、エンジンを停止し、送りローラに挟まれないように注意してください。
26. 作業終了後は、本機各部の清掃・点検及び給油を十分行ってください。特に、エンジンのエアクリーナエレメントは、エンジントラブル防止のため、こまめに清掃して下さい。
27. 前が見にくいため、作業時は、周りの安全を十分確認の上、作業を行って下さい。
28. 機械を後進させるときは、後ろに何があるか先ず確認して下さい。
29. 機械の点検整備等をするときはスイッチを切ってから行なって下さい。
30. エンジンの点検、整備等をするときはスイッチを切ってエンジンが十分冷めてから行なって下さい。
31. 走行は、送りスイッチを停止位置の状態で、走行してください。
32. 走行する際は、ホッパに物をのせないでください。

ラベルについて

機械には操作系などのラベルと「注意」「警告」「危険」の警告ラベルを貼付しています。使用前に各ラベルの位置を確認し各ラベルの意味を十分理解しておいてください。万一、ラベルが磨滅したり破損して読めなくなった場合や、はがれて紛失した場合は販売店より、新しくラベルを購入し特に、警告ラベルは「ラベルの位置」に指示してある個所に確実に貼り、他のラベルについても「ラベルの位置」を参照に貼って常にラベルが読める状態を維持して下さい。

ラベルの位置

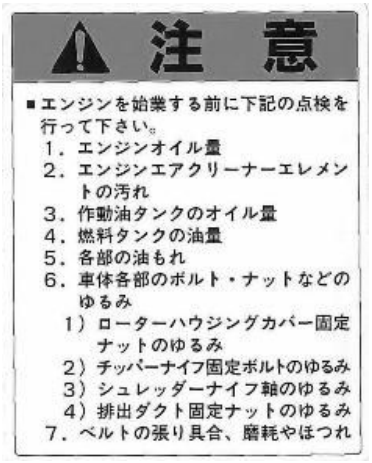




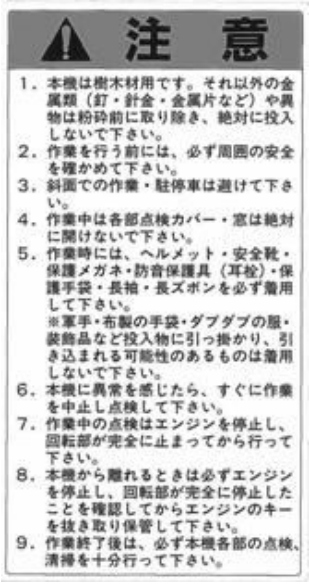
1 取扱説明書



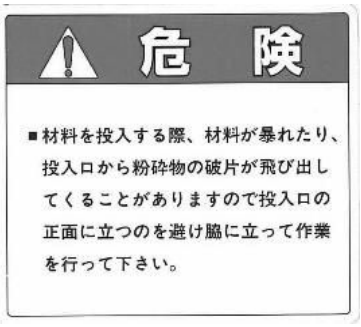
2 始業前点検



3 作業上の注意



4 正面作業注意



5 送りローラー



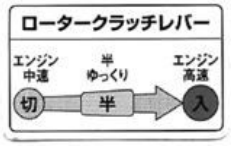
6 マフラー高温



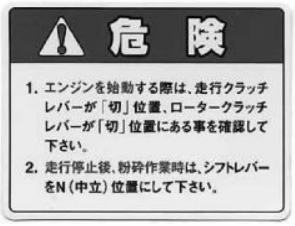
7 安全カバー



8 ロータークラッチ



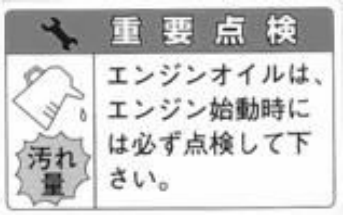
9 エンジン始動



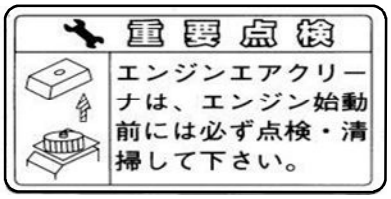
10 非常停止



11 エンジンオイル



12 エンジンエアクリーナ



13 積み降ろし



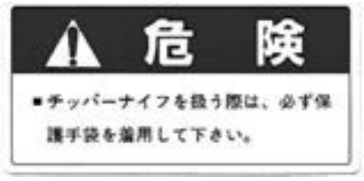
14 フィードボック



15 排出方向



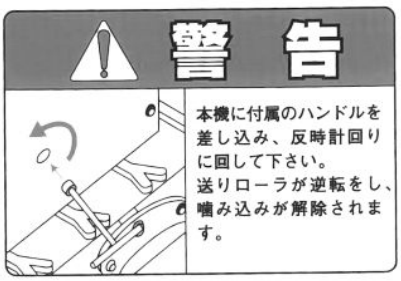
16 チッパーナイフ



17 回転部分



18 噛みこみ



19 型式ラベル



20 ヒューズ(1A)



21 ヒューズ(10A)



22 走行レバー



本機の使用目的･主要諸元

本機の使用目的

本機は、平坦地での使用を前提とし、樹木材を粉砕、減容化する事を目的とした機械です
土・砂・石・金属・ビン・樹脂・焼き物等は絶対に混入しないで下さい。
本機を使用目的以外に使用しないで下さい。

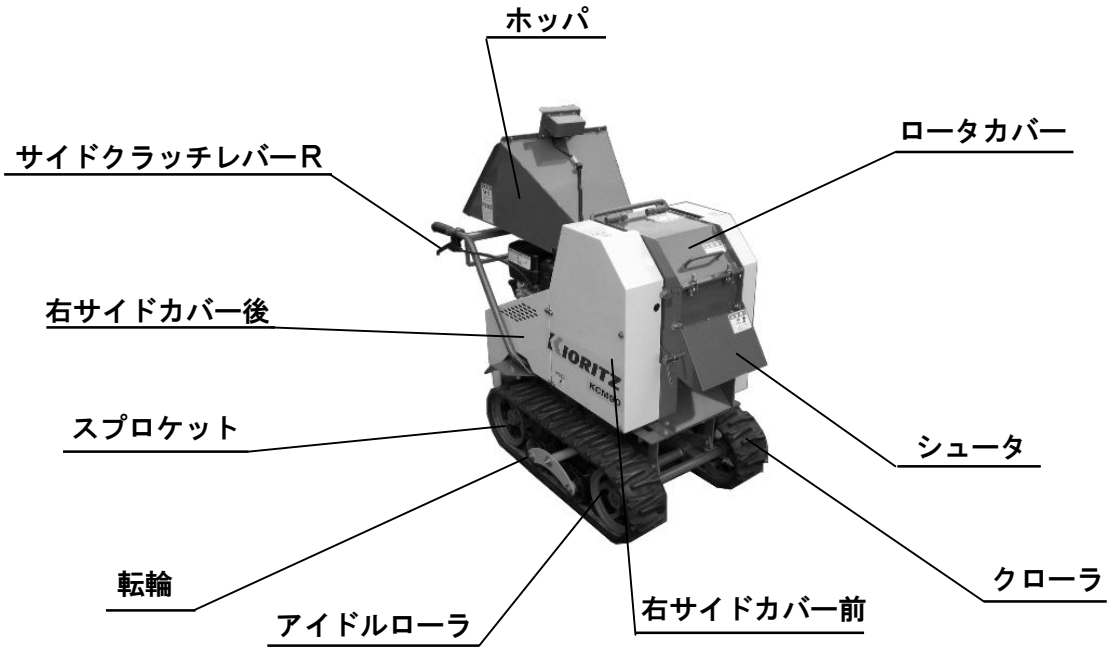
主 要 諸 元

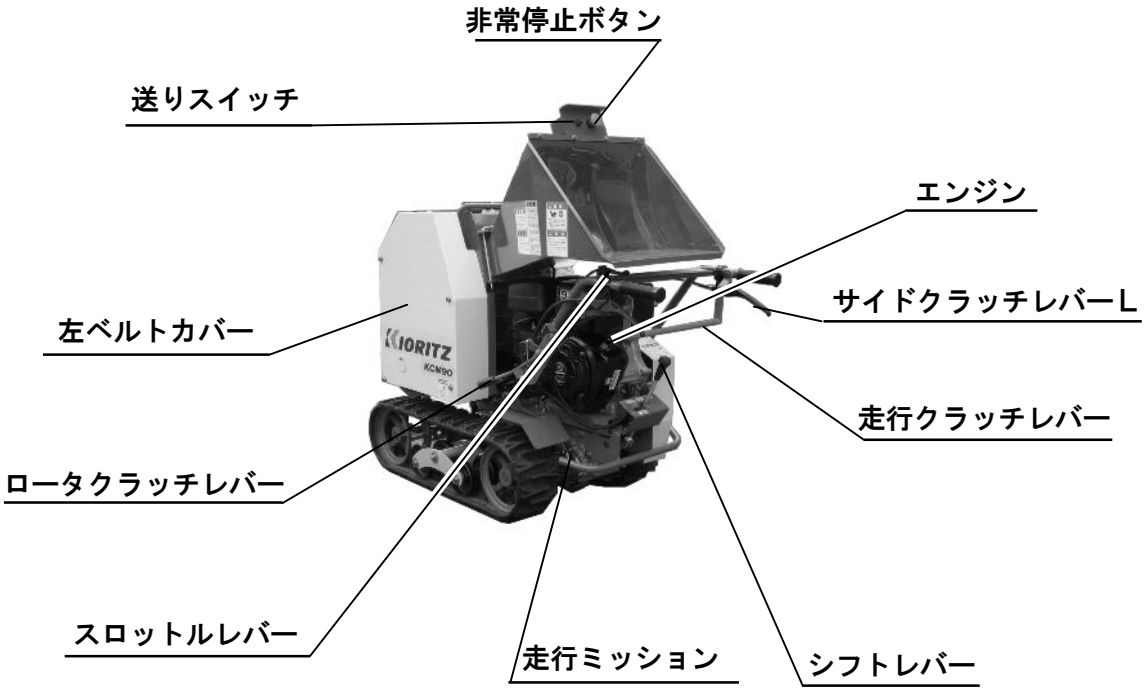
品　　名	樹木粉砕機
型　　式	KCM90
全長×全幅×全高	1360×630×1200 mm
重　　量	250 Kg
駆 動 方 式	ベルトクラッチ･Vベルト
処 理 径	最大 90 mm(軟質)
破 砕 刃	チッパナイフ2枚･受刃･シュレッダーナイフ8枚
ホ ッ パ 口 径	465×320 mm
送 り 装 置	電磁クラッチ方式（自動制御付）
排 出 方 式	空気搬送式
ダ ク ト 高 さ	650 mm
排 出 角 度	可変式
走 行 方 式	ゴムクローラ
走 行 速 度	F1速 2.1 F2速 4.1 R 1.5 km／h
エ ン ジ ン	スバルEX27
最 大 出 力	9．0（6．6） ps（kw）
点 火 プ ラ グ	NGK BP 6ES
燃　　料	自動車用無鉛ガソリン（燃料タンク 6ﾘｯﾄﾙ）

＊この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。
　尚エンジンにつきましては、エンジン取扱説明書をご覧ください。

各部の名称

機械を見ながら名称を確認ください。





運転を始める前に

機械を調子よく保ち効率的に作業ができるように毎日の作業前には必ず点検・整備を行いましょう。

注 意	ケガや事故防止・燃料への引火防止のために、次のことを厳守して下さい。 1. 点検をする時は**ロータクラッチレバーを「切」**位置、シフトレバーを**ニュートラル**位置にし、駐車ブレーキをかけてから行って下さい。 2. 本機は**樹木材用**です。それ以外の金属類（釘・針金・金属片・ロープ・ひも・土・砂・石・セメント・ビンなど）や異物は粉砕前に取り除き、絶対に投入しないで下さい。 3. 作業を行う前には、必ず**周囲の安全**を確かめて下さい。（公園など、公共施設での作業の場合は、特に周囲の安全確認を徹底して下さい。 4. **斜面**での作業・駐停車は避けて下さい。 5. 作業中は**各部点検カバー・窓**は絶対に開けないで下さい。 6. 作業時には、**ヘルメット・安全靴・保護メガネ・防音保護具（耳栓）・保護手袋・長袖・長ズボン**を必ず着用して下さい。 7. 軍手・布製の手袋・ダブダブの服・装飾品など投入物に引っ掛かり、**引き込まれる可能性**のあるものは着用しないで下さい。 8. エンジンを始動する際は、走行クラッチレバー「下」停止位置、ロータクラッチレバーが**「切」**位置にある事を確認して下さい。 9. **異常**を感じたら、すぐに作業を中止し点検して下さい。 10. 作業中の点検はエンジンを停止し、回転部が完全に**止まってから**行って下さい。 11. 本機から離れるときは必ずエンジンを**停止**し、回転部が完全に停止したことを確認して下さい。 12. 作業終了後は、必ず本機各部の**点検・清掃**を十分行って下さい。 13. エンジン**回転中**やエンジンが**熱い間**は注油・給油及び点検整備は絶対してはいけません。 14. 燃料の運搬や補給などの取扱い時は、**くわえ煙草・裸照明**は絶対してはいけません。 15. 操作系の点検は一部試走確認点検が必要であるため、平坦で広く障害物のない**安全な場所**で行って下さい。その際整備が必要な場合は1.項目内容を厳守して下さい。 16. 取外したカバー類は、**元通りに**装着して下さい。

始　業　点　検

NO.	ここを		こんな点検をして	こう処置する
1	エンジン	燃料タンク	必要な量の燃料があるか 燃料もれはないか	補給する。整備する。 ・レギュラガソリン
		クランクケース	検油ゲージの上下刻線の間に油量があるか。汚れていないか	補給する。汚れがひどければ交換する。 ・エンジンオイル（1.0L） SE級以上、エンジン取扱説明書参照
		エアクリーナエレメント	ゴミの付着や汚れがないか	エアクリーナエレメントのゴミを除去し、きれいに清掃する。 エンジン取扱説明書参照
2	操作系	ﾛｰﾀｸﾗｯﾁﾚﾊﾞｰ	入切が確実に行えるか	適正に調整する
		走行ｸﾗｯﾁﾚﾊﾞｰ （駐車ﾌﾞﾚｰｷ）	遊びしろは適正か ブレーキの効きは十分か	適正に調整する
		ｻｲﾄﾞｸﾗｯﾁﾚﾊﾞｰ	左右の旋回はスムーズに行えるか	適正に調整する
3	チッパナイフ		取付ボルト・ナットのゆるみはないか 刃こぼれ、ひび等がないか	増締めする 反転、又は交換する
4	受刃		取付ボルトのゆるみはない 刃こぼれ、ひび等がないか	増締めする 反転、又は交換する
5	走行ミッション		オイルは規定量入っているか	補給する ・ギヤオイル#90(1.4L)
6	クローラ		張りは適正か。 スチールコード・ゴムの破損、劣化はないか	張りを正しく調整する 交換する
7	ロータベルト		張りは適正か。磨耗やほつれはないか	張りを正しく調整する 交換する
8	重要なボルト・ナット ・エンジン取付ボルト ・ロータハウジング取付ボルト ・ロータカバー固定ナット		取付ボルト・ナットのゆるみはないか	増締めチェックする
9	各ワイヤ・レバー・支点及び磨耗部・しゅう動部		潤滑油が不足していないか 適正に作動が行えるか	適量注油する 適正に調整する ギヤオイル#90、WD-40など

※処置をしても直らない場合は、販売店へご相談下さい。

上手に運転するには（1）

⚠ 注　意

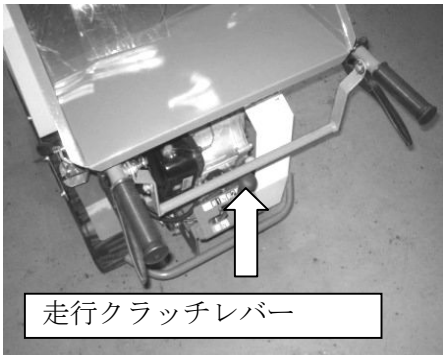
■エンジンを始業する前に下記の点検を行って下さい。
1．エンジンオイル量
2．エンジンエアクリーナーエレメントの汚れ
3．作動油タンクのオイル量
4．燃料タンクの油量
5．各部の油もれ
6．車体各部のボルト・ナットなどのゆるみ
　1）ローターハウジングカバー固定ナットのゆるみ
　2）チッパーナイフ固定ボルトのゆるみ
　3）シュレッダーナイフ軸のゆるみ
　4）排出ダクト固定ナットのゆるみ
7．ベルトの張り具合、磨耗やほつれ

⚠ 危　険

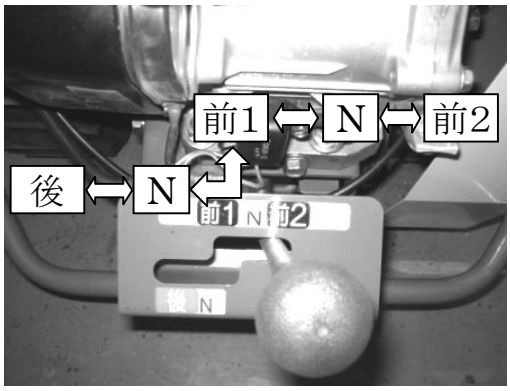
1. エンジンを始動する際は、走行クラッチレバーが「切」位置、ロータークラッチレバーが「切」位置にある事を確認して下さい。
2. 走行停止後、粉砕作業時は、シフトレバーをN（中立）位置にして下さい。

エンジンの始動のしかた

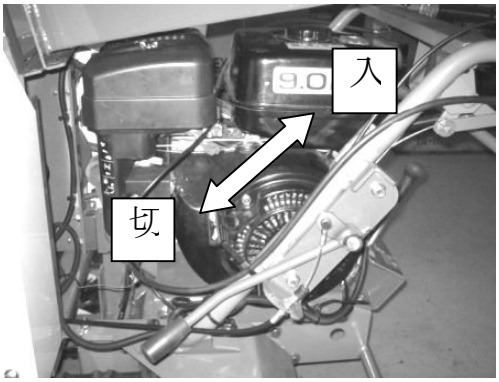
1．　走行クラッチレバーを「下」位置にして下さい。



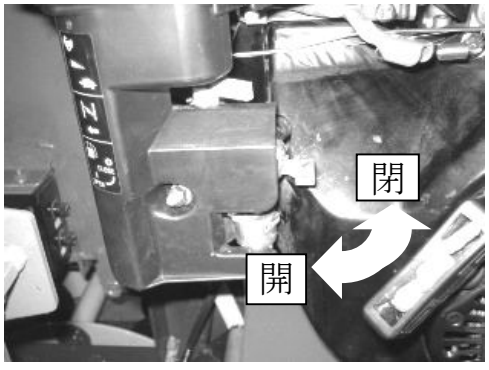
2．　シフトレバーを「N（ニュートラル）」位置にして下さい。



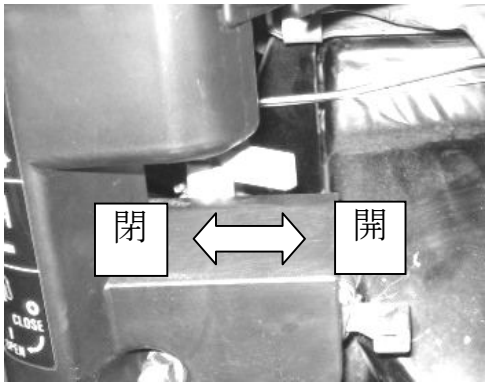
3．　ロータークラッチレバーを「切」位置にして下さい。



4．　燃料コックを「開」位置にして、エンジンを「ON」位置にします。



5．チョークレバーを「閉」位置にして下さい。



6. スターターグリップを握り圧縮位置まで軽くひき、その位置から勢いよく引っ張ってください。

7. エンジンが始動したらスターターグリップをゆっくり元の位置に戻します。

8. エンジンが始動したらチョークレバーを徐々に「開」位置にして下さい。

9. エンジン始動後、負荷をかけずに１～２分程低速で暖気運転して下さい。

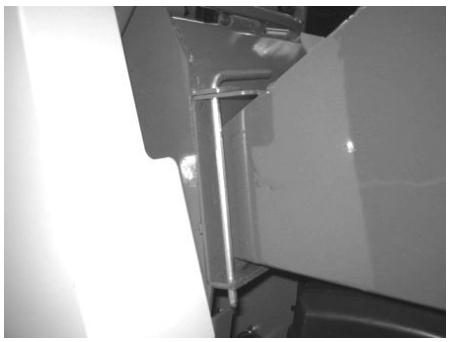
注　意　1

チョークノブの開度は、寒い時やエンジンが冷えている時は「閉」位置にして下さい。また、暖かい時や運転停止直後、再始動する場合は「開」位置もしくは「半開」位置にして下さい。

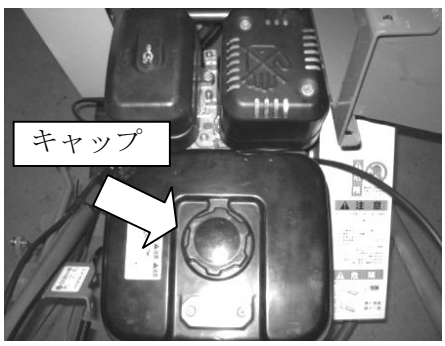
注　意　2

リコイル始動を３回以上行っても始動しないとき、続けて何回もリコイル始動していると燃料を吸いすぎ始動困難になりますので、チョークノブを「開」にし、スロットルレバーを「中」位置から「高」位置にしてからリコイル始動して下さい。

10. 給油の際は、エンジンを停止しロックピンを抜いて、ホッパーを開けて下さい。



11. 給油キャップを開けて、給油して下さい。



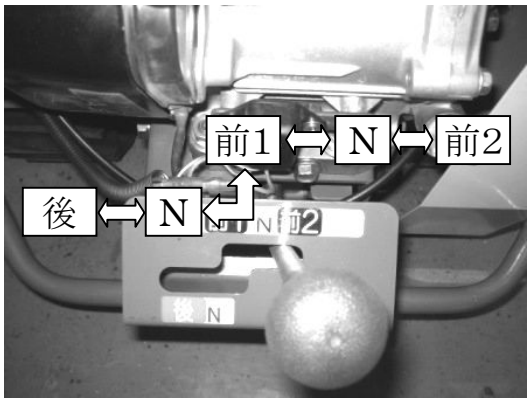
発 進 の し か た

1. 走行クラッチレバーが「下」位置にあることを確認して下さい。

2. シフトレバーを「前1：前進１速」、「前2：前進２速」、「後：後進」のいずれかの位置にして下さい。

3. 走行クラッチレバーをゆっくり「上」の位置にして発進します。

4. スロットルレバーの位置を変えて速度を調整します。



注　意　1

走行は、送りスイッチを停止位置の状態で、走行してください。

注　意　2

走行する際は、ホッパに物をのせないでください。振動によりロータハウジングへ落下し、送りローラやロータの破損、粉砕物のつまりにつながる恐れがあります。

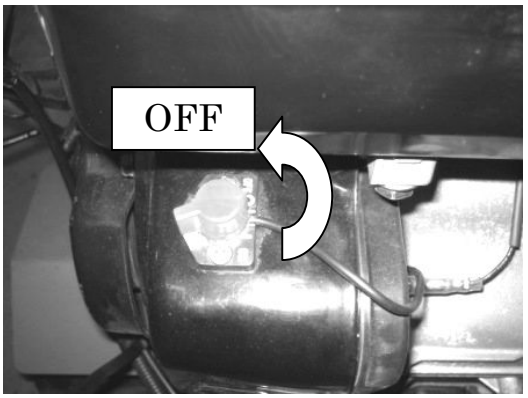
停 止 の し か た

1. スロットルレバーを「低」位置にして減速します。

2. 走行クラッチレバーを「下」位置にし、平坦地に停車します（同時に駐車ブレーキが掛かります）。

3. シフトレバーを「N（ニュートラル）」位置にします。

4. エンジンスイッチをＯＦＦの位置にし、エンジンを停止します。



変 速 の し か た

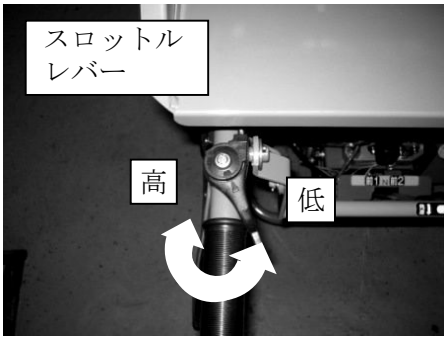
1. スロットルレバーを「低」位置にします。

2. 走行クラッチレバーを「下」位置にして停車します。

3. シフトレバーを作業に適した位置に入れます。
「前１」…低速前進　「後」…低速後進
「前２」…高速前進

4. 走行クラッチレバーをゆっくり「上」の位置にして発進します。

5. スロットルレバーを動かして速度を調整します。



注　意　1
走行クラッチレバーと駐車ブレーキが連動しており、走行クラッチレバーを「下」位置にすると自動的に駐車ブレーキがかかり、「上」位置にすると解除します。

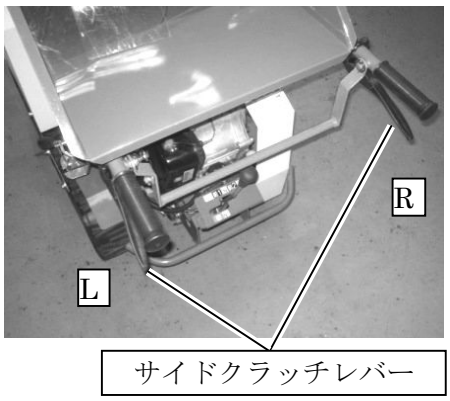
注　意　2
走行クラッチレバーと駐車ブレーキが連動しているために、チェンジが入りにくい場合があります。

注　意　3
変速は必ず走行クラッチレバーを「下」にしてから操作して下さい。

旋 回 の し か た

1. 左旋回する場合は、サイドクラッチレバーＬを握り込んで下さい。左側のクローラが停止し、機体は左旋回します。

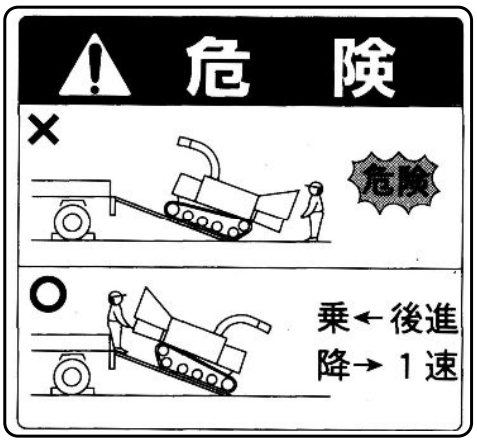
2. 右旋回する場合は、サイドクラッチレバーＲを握り込んで下さい。右側のクローラが停止し、機体は右旋回します。



注　意　1
左右のレバーを同時に握り込むと走行は停止します。

注　意　2
下り傾斜の場合は、逆操作になる場合がありますのでご注意下さい。

トラックへの積み降ろし



⚠ 危 険

■トラックなどへの積み降ろしは危険です。後進でゆっくり積み、前進でゆっくり降ろし転落しないように十分注意して下さい。
■トラックは平坦な場所に停止し、駐車ブレーキと車止めをして下さい。
■ブリッジは表示積載荷重500kg以上の表示のものを18° 以内にセットして下さい。

1. 積み降ろしのしかた

(1) 周囲に危険物のない、平坦な場所を選び、本機からは降りて操作して下さい。

(2) トラックは動き出さないようにエンジンを止め、ギヤをバックに入れ、サイドブレーキを引き、さらに「車止め」をして下さい。

(3) 基準に合ったブリッジを使用して下さい。左右のクローラがブリッジの中央に位置するようにセットしてから積み降ろしを行って下さい。

2. ブリッジ基準

(1) ブリッジは、強度・幅・長さ・すべり止め・フックのあるものを使用して下さい。

長さは、トラック荷台までの高さの３．５倍以上あるものを使用して下さい。

(2) 幅は、本機のクローラ幅にあったものを使用して下さい。

(3) 強度は、本機重量および作業者の体重の総和に十分耐え得るものを使用して下さい。

(4) 表面は、スリップしないように表面処理が施されたものを使用して下さい。

警 告 1

運搬に使用する自動車は、荷台に天井のないトラックを使用して下さい。

警 告 2

トラックへの積み降ろしは、平坦で安定した場所を選んで下さい。思わぬ事故やケガをまねく恐れがあります。

警 告 3

ブリッジのフックはトラックの荷台に段差のないよう又、外れないように確実に掛けて下さい。

警 告 4

トラックへの積み降ろしの際、ブリッジ上での方向転換、変速はしないで下さい。

警 告 5

本機がブリッジとトラックの荷台との境を越えるときには、急に重心の位置が変わりますので、十分に注意して下さい。転倒・転落による事故やケガをまねく恐れがあります。

警 告 6

トラックに積んで移動するときは、走行クラッチレバーは「下」位置にし、十分に強度のあるロープで確実に固定して荷台の上で動かないよう「車止め」を掛けて下さい。機械の転落や、本機の運転席への突っ込みによる重大な事故やケガをまねく恐れがあります。

警 告 7

本機のクローラがブリッジの中央に位置するようにして作業を行って下さい。

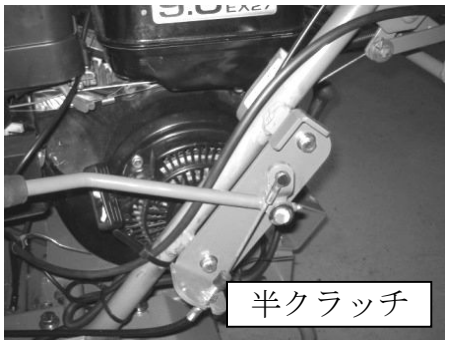
警 告 8

原則として、積み込む場合は後進で「R」位置、降ろす場合は前進「前1」位置で行って下さい。さらにスロットルレバーは「低」位置にし、ゆっくりと行って下さい。

ロータクラッチの入・切のしかた

1. ロータクラッチが、確実に切れている事を確認してからエンジンを始動させ、スロットルレバーを「中」位置にして、エンジン回転を上げます。

2. ロータクラッチレバーを「切」と「入」の中間位置（半クラッチ）にゆっくり倒し、エンジン音、ブレ等の様子を見ながら、エンジンが大きくブレない位置で保持します。



3. ロータ回転が上昇し定速になるまでロータクラッチレバーを保持します。

4. 定速になったら、ロータクラッチレバーを「入」位置に向けてゆっくり倒します。

5. スロットルレバーをゆっくり「高」の方へ回します。

6. **粉砕作業はエンジン回転数を最高まで上げて作業を行ってください。**

注　　意

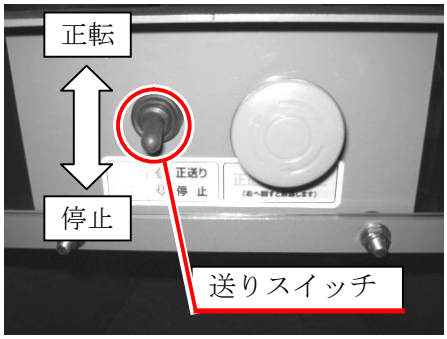
急に接続するとエンストを起こしたり、ベルトの破損につながりますので、クラッチ操作は必ずゆっくり行って下さい。

7. ロータを停止させる場合は、ロータクラッチレバーを「切」位置にすると、ロータは停止します。

   その際にスロットルレバーを「低」位置にするとエンジンブレーキがかかり、ロータの回転をはやく低下させることが出来ます。ロータの回転を十分落としてからロータクラッチレバーを「切」位置にして下さい。

送りローラ操作のしかた

1. 送りスイッチを「上」位置にすると送りローラは回転し材料をロータ内部へ搬送します。
2. 送りスイッチを「下」位置にすると送りローラは停止します。



注　意　1

この機械に投入出来る材料は最大で直径９０ｍｍまでです。それ以上大きい材料がある場合は、投入前に材料を薪割機等で小さく（細かく）してから作業を行って下さい。

注　意　2

送りローラは、マイコンで自動送り制御しています。

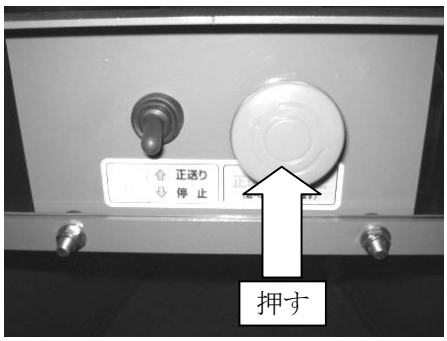
負荷によりエンジン回転が落ちると送りローラは自動停止し、エンジン回転が復帰すると回転します。

注　意　3

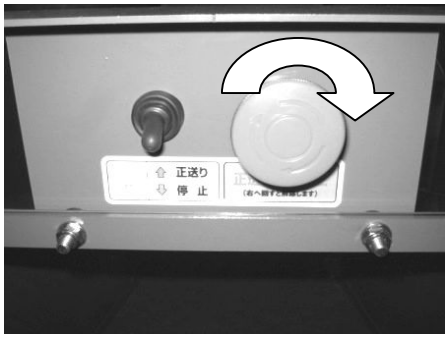
作業時以外は送りスイッチは「下」位置にして送りローラを停止状態にしてください。停止状態にしていない場合送りローラが回転する恐れがあります。

正送り非常停止のしかた

1. 正送り非常停止スイッチを押すと、送りローラが停止します。



2. 正送り非常停止スイッチは、右へ回すと解除します。（スイッチが元の位置に飛び出します。）



6. スターターグリップを握り圧縮位置まで軽くひき、その位置から勢いよく引っ張ってください。

7. エンジンが始動したらスターターグリップをゆっくり元の位置に戻します。

8. エンジンが始動したらチョークレバーを徐々に「開」位置にして下さい。

9. エンジン始動後、負荷をかけずに１～２分程低速で暖気運転して下さい。

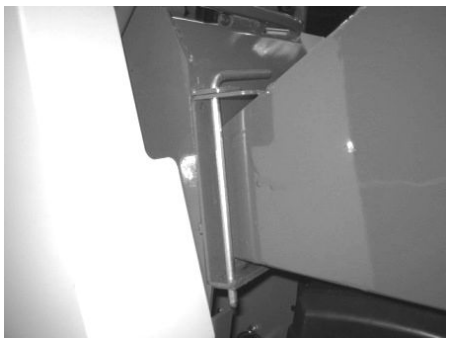
注　意　1

チョークノブの開度は、寒い時やエンジンが冷えている時は「閉」位置にして下さい。また、暖かい時や運転停止直後、再始動する場合は「開」位置もしくは「半開」位置にして下さい。

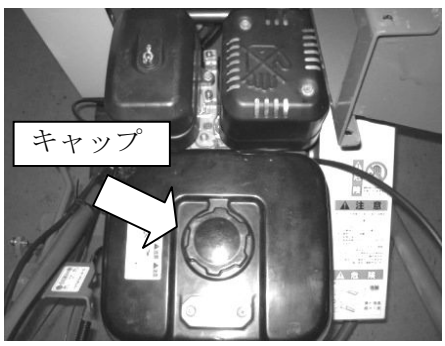
注　意　2

リコイル始動を３回以上行っても始動しないとき、続けて何回もリコイル始動していると燃料を吸いすぎ始動困難になりますので、チョークノブを「開」にし、スロットルレバーを「中」位置から「高」位置にしてからリコイル始動して下さい。

10. 給油の際は、エンジンを停止しロックピンを抜いて、ホッパーを開けて下さい。

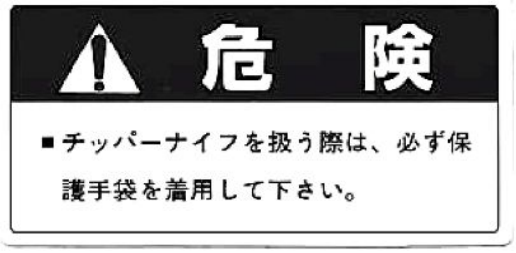


11. 給油キャップを開けて、給油して下さい。



上手に運転するには(2)

注　　意
1．点検･整備をする時は、ロータクラッチを「切」位置、走行クラッチレバーを「下」位置、シフトレバーを「N」位置にして、エンジンを停止してから行って下さい。 2．点検は、回転部が完全に止まってから行って下さい。 3．チッパナイフを扱う際は、必ず保護手袋を着用し、けがのないよう十分注意を払って下さい。 4．取外したカバー類は元どおりに装着して下さい。



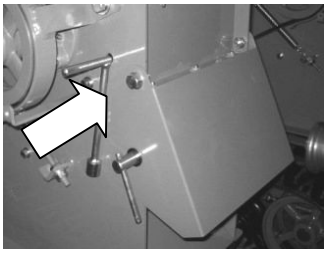
チッパナイフの反転・交換

チッパナイフが切れなくなると、エンジンに負荷がかかり、チップが詰まりやすくなったり、騒音や振動が激しくなり、機械各部やベルトにも無理がかかり、寿命が著しく短くなりますので、定期的にロータカバーを開け、チッパナイフに歯こぼれ，ひび等の異常がないか点検して下さい。

1．ロータカバーの固定ナットを緩めロータカバーを開けて下さい。

2．ロータクラッチレバーを「切」位置にして、ロータを回し付属の工具が挿せる位置にして下さい。

3．付属の工具を差し、ロータが回らないようにして下さい。



4．六角レンチにて六角穴付皿ボルト（４本）を固定し、裏側にあるナットを緩め六角穴付皿ボルト（４本）を外して下さい。

5．チッパナイフを反転、または交換後は、六角穴付皿ボルト（４本）を２枚ともにしっかりと締め付けて下さい。

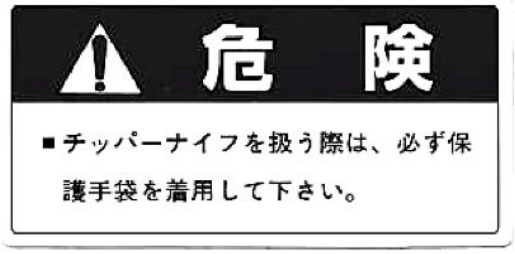
6．チッパナイフの反転、または交換後は、**ナイフの調整**（P. 20）の要領で、必ず受刃の調整を行って下さい。

7．チッパナイフの反転、または交換後は、ロータカバーを元に戻し、固定ナットをしっかりと締め付けて下さい。

重　　要

チッパナイフの取付け、受刃の調整が終わりましたら、必ずロータを手で回転させ、チッパナイフと受刃が**当らないこと**を確認して下さい。

受刃の反転・交換

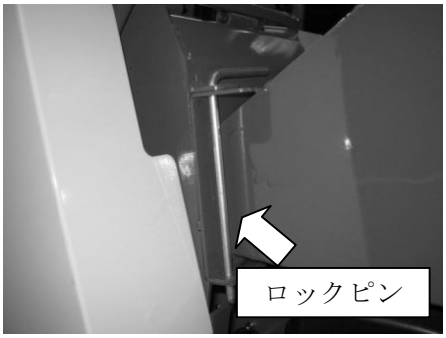


受刃の刃先が丸くなったら受刃を固定しているM12の固定ボルト（２本）を外して、反転または交換して下さい。

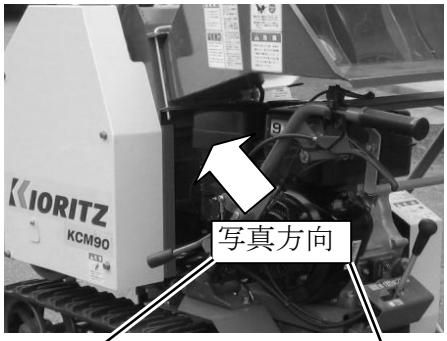
受刃を反転・交換する場合は、以下の要領で行って下さい。

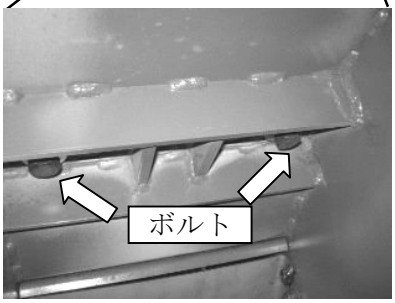
1. ロータカバーの固定ナットを緩め、ロータカバーを開けて下さい。

2. ロックピンを抜いて、ホッパを開けて下さい。



3. 受刃を下側から固定しているM12の受刃固定ボルト（２本）を外して下さい。





4. 受刃を反転、または交換して下さい。

5. ナイフの調整の要領で受刃の調整を行い、M12の受刃固定ボルト（２本）をしっかりと締め付けて下さい。

重　　要

受刃の取付け、調整が終わりましたら、必ずロータを手でゆっくり回転させ、チッパナイフと受刃が**当らないことと隙間が０．５ｍｍ前後あること**を確認して下さい。

ナイフの調整(重要)

チッパナイフや受刃の反転・交換を行った場合、必ずエンジンを停止して次の手順でチッパナイフと受刃の**すき間を調整**して下さい。

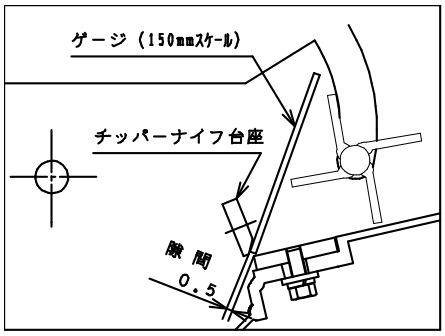
・受刃の調整

1. ロータカバーを固定しているM10の固定ナット（２ヶ）を緩めロータカバーを開いて下さい。

2. 受刃を下側から止めているM12の固定ボルト（２本）を緩めて下さい。

3. 手でロータをゆっくり回して、チッパナイフ台座の先端を受刃の位置で止めます。

4. 付属のゲージ（１５０ｍｍスケールの厚み）を使って受刃とチッパナイフ台座の隙間を調整します。（０．５ｍｍ）

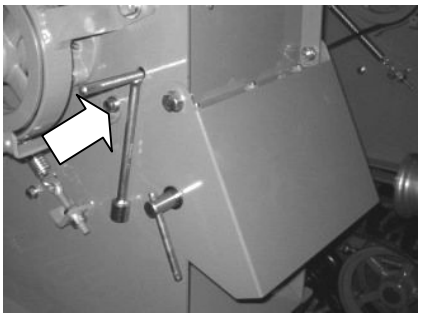


5. 手でロータをゆっくり回して、２枚のチッパナイフと受刃が当たらないことと、隙間が０．５ｍｍ前後あることを確認して下さい。

・チッパナイフの反転・交換

1. ロータカバーを固定しているM10の固定ナット（２ヶ）を緩めロータカバーを開いて下さい。

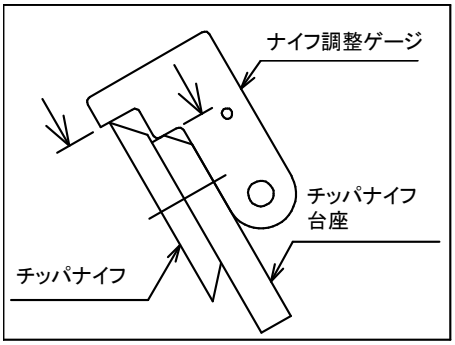
2. 付属の工具をロータハウジングの外側からロータへ挿して固定します。



3. チッパナイフを固定しているM12のネジ(ナット側４ヶ)を緩めて入れ換えます。

4. M12のネジを軽く締めます。

5. 付属の調整ゲージ(小)を図のようにチッパナイフ台座に押し当てて、チッパナイフ先端がゲージに接触するように左右を調整しネジ （４ヶ)をしっかりと締めて下さい。



6. もう一方のチッパナイフを同じ要領で調整してください。
調整後、ネジ(４ヶ)をしっかり締めて下さい。

7. 調整が終わったら、ロータを固定している工具を外し、手でロータをゆっくり回して受刃に当たらないこと、隙間が０．５ｍｍ前後あることを確認して下さい。

注　　意

チッパナイフ、受刃の固定ネジは締め不足、締め忘れのないようにして下さい。

作業中に外れると機械が破損するばかりではなく、金属片が飛び出して大変危険です。

粉砕作業時の注意点

注　意
1. つまりの原因を除去する場合、ナイフでケガをしないよう、十分に注意して作業に当たって下さい。
2. 粉砕する材料に金属類（釘・針金・金属片・土・砂・石など）や異物が混入していないことを確認のうえ、作業を行って下さい。
3. 粉砕作業は、
1) シフトレバーはN（ニュートラル）位置、走行クラッチレバーは「下」位置で行って下さい。
2) スロットルレバーは「高」位置にして、フルスロットル状態で作業を行って下さい。
3) 1Aヒューズが切れると、自動送り制御が働かず、エンジンストップに至る場合があります。
4. 住宅地での作業では、周りへの騒音に注意を払って下さい。
5. 作業時、エンジン停止直後のマフラおよびその周辺は、高温のため触れないよう十分注意して下さい。
6. 危険防止のために（P1～P2）、運転を始める前に（P8）を再読して下さい。

つまり防止の方法

つまりの発生を防止するために、下記の事項に十分注意の上、作業を行って下さい。

(1) ロータが完全に回り出してから粉砕作業を開始して下さい。

(2) 作業時は、半クラッチやクラッチを切った状態での使用を避け、必ずロータクラッチレバーを「入」位置にして接続した状態で使用して下さい。

(3) スロットルレバーは「高」位置にして、フルスロットル状態で作業して下さい。エンジンの回転数が低いと送りローラが回転しません。

(4) ロータベルトの張り点検を行い動力が十分伝わる状態で使用して下さい。（エンジン及びロータが完全に止まっていることを確認の上、点検して下さい。）

(5) 粉砕材料（特に枝、葉）が、雨や水に濡れている場合は、粉砕作業はできません。

上手に運転するには(2)

噛みこみの解除のしかた

材料が送りローラに噛みこんだままエンジンが停止した場合

(1) ロータクラッチを「切」にして下さい。

(2) 本機に付属の工具を下図のように差し込み反時計回りに回して下さい。

(3) 送りローラが逆転をし噛み込みが解除されます。



(4) ロータカバーの固定ナットを緩めロータカバーを開きます。

(5) ロータハウジング内の粉砕物を取り除いてください。



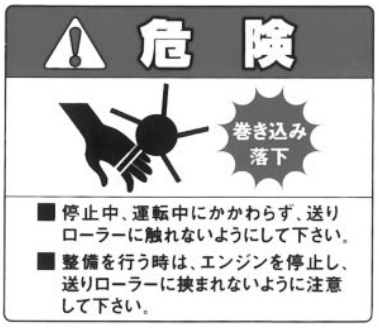
(6) ロータカバーを閉め固定ナットを締めます。

ひっかかりの除去のしかた



(1) ひっかかりを除去した際に、送りローラ部が所定の位置まで下りますが、その際に手等がはさまれる恐れがあり大変危険ですので、フィードボックス・送りローラ取付部に直接触れないようにして下さい。

(2) 材料等がひっかかって、送りローラ取付部がきちんと下がらない場合は、角材・棒等で押して、解除してください。



(1) 停止中・運転中にかかわらず、送りローラに触れないようにしてください。

(2) 整備を行なう時は、エンジンを停止して、送りローラにはさまれないように注意して下さい。

(3) ひっかかりを除去する際は、送りローラが落下してきて手等がはさまれたりすることがないように十二分に注意して作業を行なって下さい。

定期の点検・整備をするには

調子よく作業するために、定期的に行いましょう

注　　意

ケガの防止や燃料への引火防止のため、点検・整備を行うにあたり、次のことを厳守して下さい。

1. **点検・整備をする時は、ロータクラッチを「切」位置にし、シフトレバーを「N（ニュートラル）」位置にしてから行って下さい。**
2. **エンジン回転中やエンジンが熱い間は注油、給油は絶対行わないで下さい。**
3. **燃料の取扱い時やエンジンの整備時はくわえ煙草・裸照明は絶対しないで下さい。**
4. **操作系の点検は、一部走行試験が必要であるため、平坦で広く障害物のない安全な場所で行って下さい。その際整備が必要な場合は1．項目内容を厳守して下さい。**
5. **取外したカバー類は元どおりに装着して下さい。**

オイル交換

オイル交換の際には次のことに注意して行って下さい。

1. 古くなったオイルは、機械の性能を落とすだけでなく故障の原因となります。定期的に古いオイルを抜き取り、新しいオイルを規定量給油して下さい。

	オイル	規定量	交換時間
エンジンクランク室	SE級以上	1.0ﾘｯﾄﾙ（ｹﾞｰｼﾞ付）	初回 20時間目 2回以降 50時間毎
走行ミッション	ギヤオイル#90	1.4ﾘｯﾄﾙ	初回 50時間目 2回以降 200時間毎（走行）

2. オイルの抜き取りはオイルが暖かいうちに行うと容易に抜くことができます。

注　　意

作業直後は、高温のため危険です。しばらくたってから交換作業して下さい。

3. エンジンオイルの質および量の低下は焼付トラブルをまねきます。オイルの品質はＳＥ級以上の良質のもので外気温度に応じて、純正オイル、または、自動車用エンジンオイルを使用して下さい。

4. マルチグレードを使用する場合、外気温が高いときオイルの消費量は増す傾向にありますので注意して下さい。

走 行 ク ラ ッ チ

警　　告

走行クラッチの入・切があまいと本機の走行や停止の作動に支障をきたす恐れがあり大変危険です。

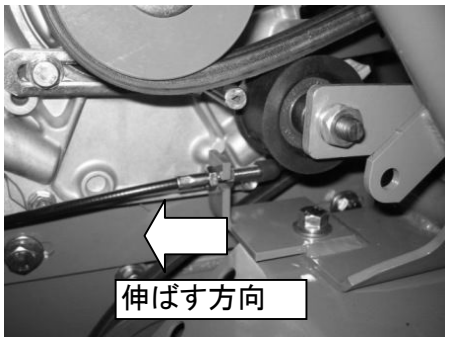
走行や停止の作動に異常を感じたときには即座に下記の調整を行い、常に安全を心掛けるようにして下さい。

走行クラッチの調整

1. 走行クラッチレバーを「上」位置にして下さい。（走行クラッチが入ります）

2. 右サイドカバー（前）、右サイドカバー（後）を固定しているM8のボルト（７本）を緩め、外します。

3. 走行ベルトの張りが弱い場合、ワイヤアジャスタを伸ばして調整します。調整後ロックして下さい。



4. 走行クラッチレバーを「下」位置（走行クラッチが切れます）にしてエンジン始動の要領でエンジンを始動し、走行ベルトクラッチが確実に切れることを確認して下さい。

5. 走行クラッチベルトの張りがワイヤアジャスタで張れなくなった場合は、ベルトが伸びています。新品のベルトと交換して下さい。

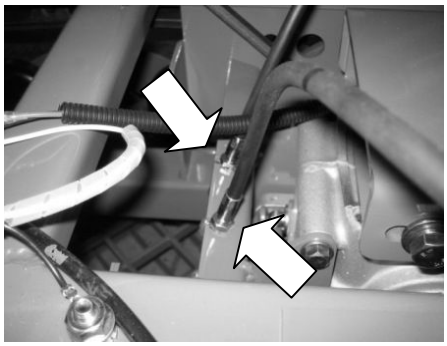
サイドクラッチ

サイドクラッチワイヤが伸びて、効きがあまくなった場合、又は旋回がスムーズに行えない場合には、下記の要領で調整して下さい。

サイドクラッチの調整

(1) まず、ギヤボックス内のギヤをうまくかみ合った状態にするため、サイドクラッチレバーを操作しないで、２～３ｍほど前･後進してから停止してください。

(2) サイドクラッチレバーの遊び(ガタ)がなくなるようにワイヤのアジャストナットで調整します。

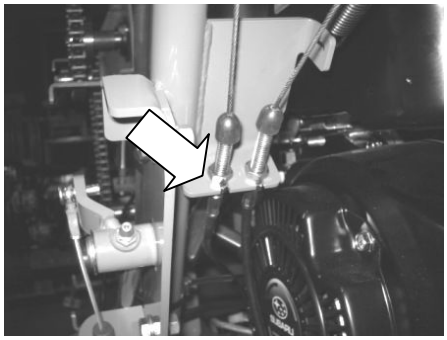


駐 車 ブ レ ー キ

ブレーキの効きがあまいと非常に危険です。逆にブレーキを引きずると本機故障の原因となりますので、ブレーキの利き方に異常を感じたときには即座に下記の調整を行い、常に安全を心掛けるようにして下さい。

1．駐車ブレーキワイヤの調整

走行クラッチレバーは、ブレーキと連動しており走行クラッチレバー「切」でブレーキが効きます。
走行クラッチレバー「切」でスプリングの伸びが１ｍｍになるようにアジャストナットにて調整してください。調整後は、確実にアジャストナットを締めこんでください。



2．駐車ブレーキの交換

ブレーキの調整をしてもブレーキの効きが悪くなった場合は、ブレーキの交換が必要です。

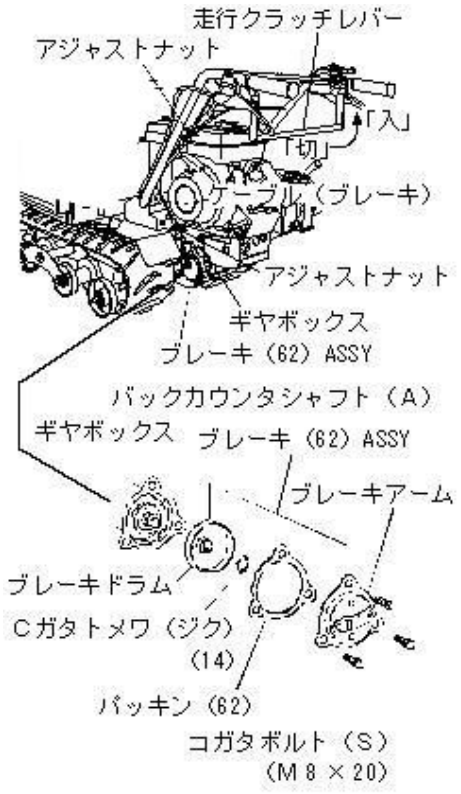
(1) 走行クラッチレバーを「入り」位置にし、ワイヤのアジャストナットをいっぱいまで緩めます。

(2) 小型ボルトM8×20(３本)を外し、パッキンを傷つけないようにブレーキを外します。
更に、スナップリング(軸)を外し、ブレーキドラムも同時に外します。

(3) 元のようにブレーキＡＳＳＹを取り付けます。パッキンが傷ついた場合は、パッキンも同時に交換してください。

(4) 小型ボルトM8×20(3本)を仮付けし、ブレーキアームを手でしっかり押えながら(芯出し)小型ボルトを締めこみます。

(5) 駐車ブレーキワイヤの調整をします。



ロータクラッチ

ロータベルトが伸びるとベルトの張りが弱くなり、駆動力の伝達能力の低下やベルトの早期磨耗を引き起こす原因となりますので、定期的に点検・調整を行って下さい。

1. ロータクラッチワイヤの張り調整

(1) ロータクラッチワイヤのアジャスタのロックナットを緩めて下さい。

(2) ロータベルトの張りが弱い場合、ワイヤアジャスタを動かし、ワイヤが伸びる方向へ調整し、ロータクラッチレバー「入」位置で、テンションプーリの反対側のベルト中央を指で軽く押さえたときのたわみ量が１０～１５㎜になり、「切」位置で確実にベルトが切れるようにして下さい。

2. ロータベルトの張り直し

ロータクラッチレバー「入」位置で、ロータクラッチワイヤアジャスタの調整代がなくなった場合は、次の手順でベルトを張り直して下さい。

(1) ロータクラッチレバーを「切」位置にして下さい。

(2) ロータクラッチワイヤのアジャスタをベルトの張りが弱くなる方向にネジ部いっぱいに動かして下さい。

(3) エンジンベースを固定しているM10の固定ボルト（４ヶ）を緩めて下さい。

(4) エンジンをベルトが張る方向へ動かし、ロータベルトをエンジン側に軽く引いてエンジンプーリとベルトのすきまが３～６㎜になるよう調整し、エンジンベースの固定ボルトを締め付けて下さい。

(5) **１．ロータクラッチワイヤの張り調整**の要領でロータクラッチワイヤの張り調整を行い、ベルト支エの位置調整を行ってロータクラッチレバー「切」位置で確実にベルトがきれるようにして下さい。

3. ロータベルトの交換

ロータクラッチレバー「入」位置で、ロータクラッチワイヤアジャスタの調整代がなくなった場合や、ベルトが摩耗やほつれたりした場合は、次の方法で新しいベルトと交換して下さい。

(1) ロータクラッチレバーを「切」位置にして下さい。

(2) 右サイドカバー（前）（後）を外して下さい。

(3) ロータクラッチワイヤのアジャスタをベルトの張りが弱くなる方向にネジ部いっぱいに動かして下さい。

(4) エンジンベースを固定しているM10の固定ボルト（４ヶ）を緩めて下さい。

(5) Ｒベルトホルダを固定しているM10の固定ボルトを外し、Ｒベルトホルダを外して下さい。

(6) 古いロータベルトをエンジンプーリ側から外し、新しいロータベルトをロータプーリ側から取り付けます。

(7) ２．ロータベルトの張り直しの要領でロータベルトの張り調整を行って下さい。

4. ロータクラッチの「切」確認

調整が終わったらロータクラッチレバーを「切」位置にしたとき、ベルトのつき回りがないことを確認して下さい。

(1) 右サイドカバーは取り付けず、ロータクラッチレバーを「切」位置にして下さい。

(2) 燃料コックを「開」位置にし、エンジンスイッチを「ＯＮ」位置にして下さい。

(3) エンジンを始動させ、スロットルレバーを「中」位置にして下さい。

(4) ロータクラッチレバーを除々に「始動時」－「入」位置にして下さい。

(5) ロータクラッチレバーを、ゆっくり操作し「入」位置、「切」位置を繰り返し、確実に、ロータクラッチが切れることを確認して下さい。

(6) ロータクラッチが切れなかった場合は、エンジンを停止し、燃料コックを「閉」位置にして、ロータベルトのワイヤアジャスタでベルトの張り具合と各ベルト支えの位置を再調整して、確認作業を行って下さい。

(7) 調整が終わったら、右サイドカバーを元どおりに装着して下さい。

注　　意

ベルトの装着方向は、プーリの回転方向でベルトの印刷文字の頭がくるようにして下さい。逆にすると、寿命が短くなります。

チ ェ ー ン

チェーンの注油が正常でないと、チェーンの伸び、磨耗が早まります。

オイル切れがないように、定期的に注油してください。

(1) 注油の前にチェーンから異物や汚れをできだけ取り除きます。

(2) 機械油ＳＡＥ20または、大同チェーンルーブをチェーンの前面に注油します。

チェーンが正しくスプロケットと噛み合っていない場合は正しく噛み合わせてください。

また、チェーンが破損した場合や伸びたり磨耗し正しく噛み合わせる事が出来なくなった場合は、チェーンを交換してください。

目　次

危険防止のために…… 1

ラベルについて…… 3

本機の使用目的・主要諸元…… 6

各部の名称…… 7

運転を始める前に！…… 8
始業点検…… 9

上手に運転するには（1）…… 10
エンジンの始動のしかた…… 10
発進のしかた…… 12
停止のしかた…… 12
変速のしかた…… 13
旋回のしかた…… 13
トラックへの積み降ろしのしかた…… 14
ロータクラッチの入切のしかた…… 15
送りローラ操作のしかた…… 16
非常停止のしかた…… 16
シュータの固定と排出方向…… 17

上手に運転するには（2）…… 18
チッパナイフの反転・交換…… 18
受刃の反転・交換…… 19
ナイフの調整…… 20
粉砕作業の注意点…… 21
つまり防止の方法…… 21
噛みこみの解除のしかた…… 22
ひっかかりの除去のしかた…… 22

定期の点検・整備をするには…… 23
オイル交換…… 23
走行クラッチ…… 24
サイドクラッチ…… 24
駐車ブレーキ…… 25
ロータクラッチ…… 26
チェーン…… 27
クローラ…… 28
シュレッダーナイフ…… 29
シュレッダーナイフ軸…… 29
エンジン…… 30

給油・注油するところ…… 33

締め付けするところ…… 34

作業後の手入れ／長期保管…… 35
作業後の手入れ…… 35
長期保管…… 36
注意…… 36

消耗部品一覧表…… 37

トラブルシューティング…… 38
エンジンに関するトラブル…… 38
送り制御に関するトラブル…… 39

配線図…… 40

万一の事故に備えて…… 41

お客様へ…… 42

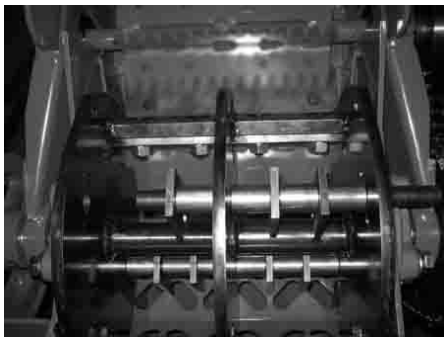
定期の点検･整備をするには

シュレッダーナイフの反転･交換

シュレッダーナイフが磨耗した場合は、シュレッダーナイフの方向を変え鋭利な刃先で材料を粉砕するようにして下さい。シュレッダーナイフは４角使用できます。全ての刃先が丸くなったらシュレッダーナイフを交換してください。

シュレッダーナイフを反転したり交換する場合は、以下の要領で行なってください。

1. ロータカバーの固定ナットを緩めロータカバーを開きます。
2. シュレッダーナイフ軸のナイフ軸押さえの固定ボルト･ナットを外しナイフ軸押さえを外します。
3. シュレッダーナイフ軸を４分の１ほど抜きます。



4. シュレッダーナイフを軸から抜き反転または交換します。
5. 反対も同様に軸を４分の１程度抜き、反転または交換します。
6. ナイフ軸押さえを取り付けます。
7. 残りの軸のナイフも同様に反転･交換をします。
8. ロータカバーを閉め固定ナットを締めます。

注　　意

シュレッダーナイフの間のカラーが磨耗した場合も同様に交換してください。

シュレッダーナイフ軸の交換

シュレッダーナイフ軸に異常があった場合以下の手順で交換してください。

1. Ｒベルトホルダ・ロータプーリを外します。
2. ロータカバーの固定ナットを緩めロータカバーを開きます。
3. シュレッダーナイフ軸のナイフ軸押さえの固定ボルト･ナットを外しナイフ軸押さえを外します。
4. シュレッダーナイフ軸を外し、新しいナイフ軸を元の様に通します。
5. ナイフ軸押さえを取り付けます。
6. ロータカバーを閉め固定ナットを締めます。
7. Ｒベルトホルダ・ロータプーリを元の様に取り付けます。

エンジン

1. エンジンオイルの交換

＊オイル交換の項参照

(1) エンジンオイルの交換
初　　回 ２０時間運転後に交換
第２回以 ５０時間運転毎に交換
オイル交換はエンジンを停止し、暖まっている時ドレンプラグを外して抜いて下さい。オイルゲージを外しておくと早く抜けます。

注　　意

熱いオイルが体にかかると火傷する恐れがありますので十分に注意して下さい。

(2) オイルを注入する時は、ドレンプラグをしっかり締めて下さい。約1．0リットル入ります。

(3) エンジンオイルが汚れていたり、少なかったり、品質の悪い物を使用するとエンジンの寿命を縮めます。常に良質できれいなオイルを規定量保つように注意して下さい。

2. 点火プラグの清掃と調整と交換

(1) プラグがカーボンで汚れている場合は、プラグクリーナまたはワイヤブラシ等で汚れを落として下さい。

(2) 電極間隙の広い場合は側方電極を曲げて0．6～0．7㎜に調整して下さい。

(3) 点火プラグの掃除と電極間隙を調整し、それでもエンジンがかからない場合は新しい点火プラグと交換して下さい。（NGK BP6ES）

(4) 交換や調整後は、点火プラグを元の位置に締付けプラグキャップを確実に差し込んで下さい。

3. 燃料ストレーナの清掃

危　　険

火気厳禁

(1) ストレーナカップ内に水やゴミがたまっていないか調べて下さい。

(2) ゴミ等がたまっている時は、燃料コックを「閉」位置にし、ストレーナカップを左にまわして外して下さい。

(3) ストレーナカップ内の水やゴミを捨て、コシアミに付着しているゴミも捨てて、白灯油で洗浄して本体に完全に締め付けて下さい。

4. エアクリーナの清掃

空気中の塵挨を取り除き、エンジンにきれいな空気を供給するエアクリーナエレメントの汚れがひどい時は、エンジンの始動不良、出力不足、運転の不調をきたすばかりでなく、エンジンの寿命を極端に短くします。

いつもきれいなエアクリーナエレメントにしておくよう心掛けて下さい。

危　　険
火気厳禁

(1) エアクリーナエレメントの汚れがひどいときは、以下の要領で清掃して下さい。

1) ノブを外しカバー、エレメント（ウレタンフォーム付）を取り外して下さい。

2) ウレタンフォームは５０時間毎に清掃して下さい。
① 汚れが著しい時は交換は交換してください。
② 洗油（白灯油）で洗浄後、白灯油3：エンジンオイル1の混合油に浸し、きつく絞って取り付けて下さい。

③ ペーパーエレメントに取り付けて下さい。

(2) ペーパーエレメントは、頻繁に清掃して下さい。また、定期的に交換して下さい。
1) ペーパーエレメントは、軽くたたくか、内側から圧縮空気を吹き付けるか、軽く叩いて汚れを落として下さい。なお、汚れがひどい場合は交換して下さい。

2) ペーパーエレメントは運転２００時間毎、又は、シーズン毎のいずれか早い時期に交換して下さい。（汚れが著しい時はすぐに交換して下さい）

(3) 清掃後、ペーパーエレメントを正しくクリーナベースに置き、ウレタンフォーム、グロメットが正しく装着されているか確認してカバーを取り付け、締め付けて下さい。

5. 燃料パイプの交換

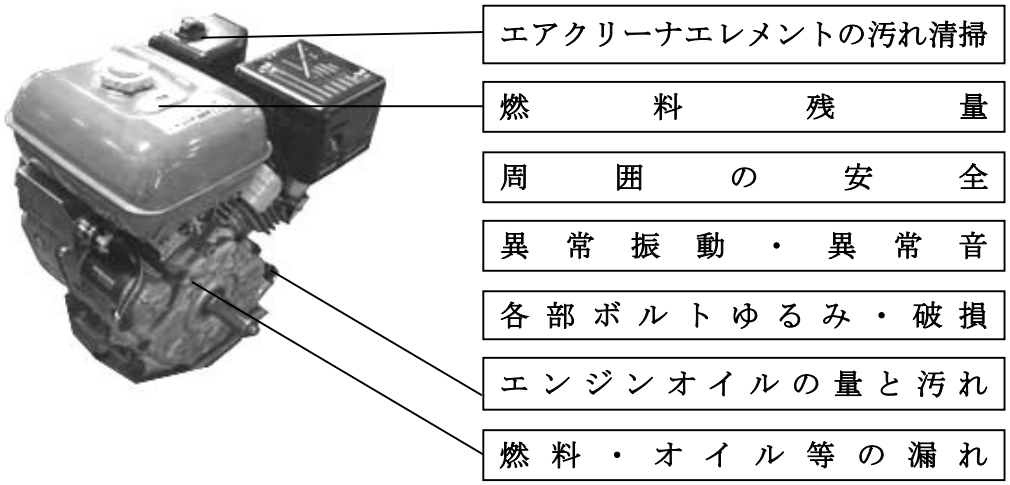
危　　険
火気厳禁

(1) 使用頻度に関わらず、燃料パイプは　１００時間毎で交換して下さい。燃料漏れは引火する危険があります。

(2) 点検時、パイプにキズやヒビ等の損傷、燃料漏れ等のあるものは即交換して下さい。

注　　意
点検・補給は、必ずエンジンを停止してから行って下さい。

6. 日常点検



7. 定期点検

エンジンを常に良好な状態で使うため、次の点検表に従って保守点検を必ず実行して下さい。

運転時 点検項	8時間 （毎日）	50時間 （毎週）	200時間 （毎月）	500時間	1000時間
各部の清掃及び締付点検	●(毎日)				
エンジンオイルの点検・補給	●(毎日規定最大量まで補給する)				
エンジンオイル交換	(初回20時間目)	●			
点火プラグの清掃		●			
エアクリーナの清掃		●			
燃料ストレーナの清掃			●		
点火プラグ間隙清掃と調整			●		
シリンダヘッドのカーボン除去				◎	
気化器清掃				◎	
吸排気弁点検すり合わせ				◎	
オーバーホール				◎	◎

◎印の500時間、1000時間の点検項目は、販売店または整備工場にご用命下さい。

給油・注油するところ

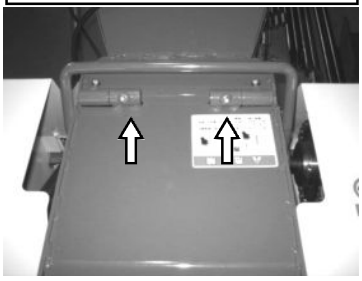
注油位置　　給油位置　　給脂（グリース）位置

注　意

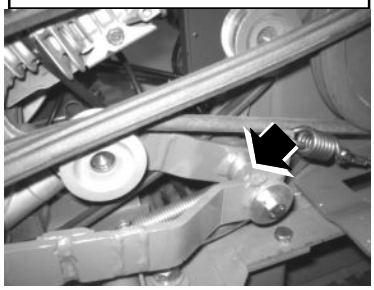
給油や注油を怠ると本機において、不具合や故障の原因となりますので定期的に給油・注油を行なって下さい。



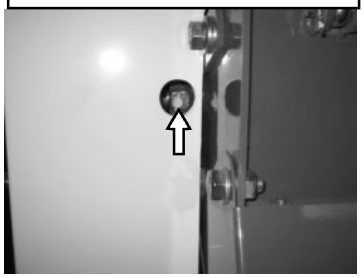
ローターカバー



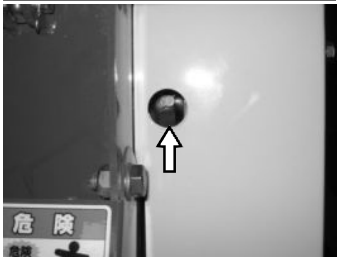
テンションアーム(カバー内)



ユニットベアリング



ユニットベアリング

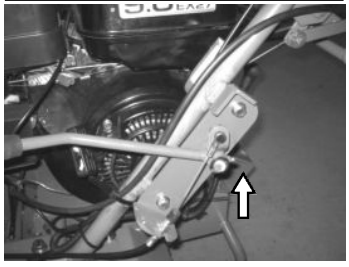




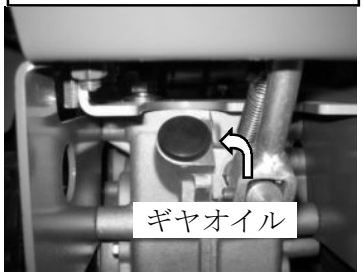
燃料タンク



ロータクラッチレバー



ミッション

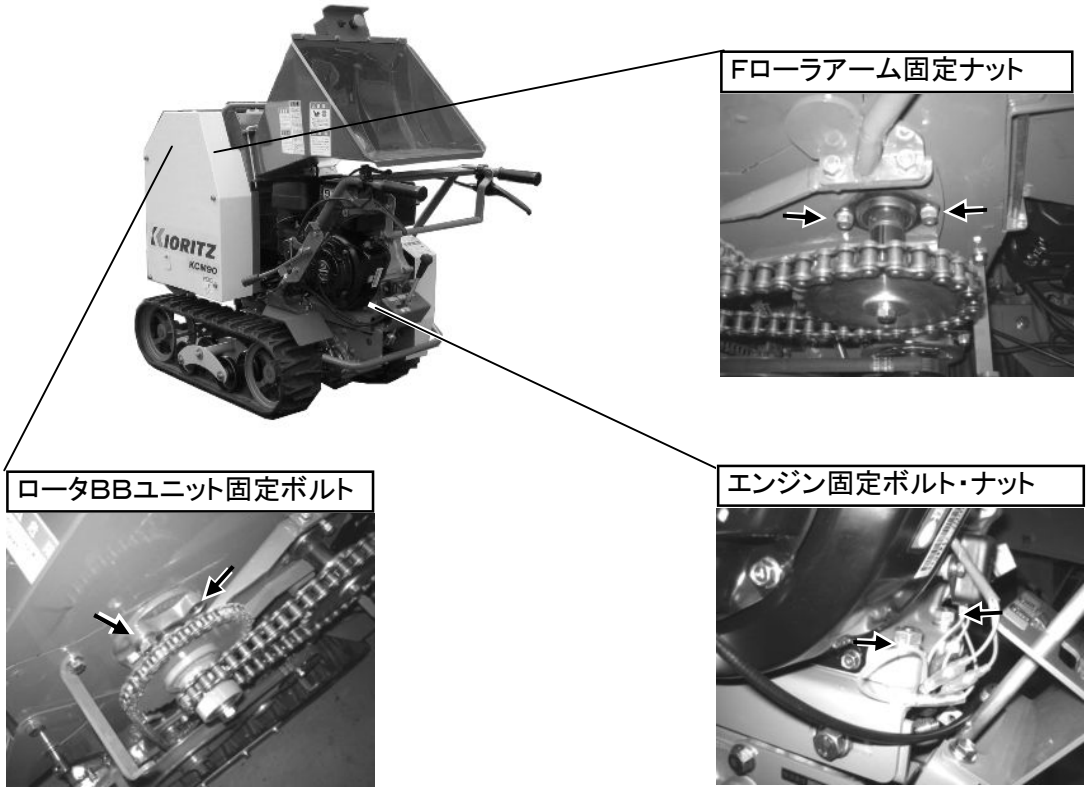


エンジン



締付するところ

注意
ボルト・ナット部は多少ゆるむことがありますので、使用前に各主要部の締め付けボルト・ナットの増し締めを行って下さい。



作業後の手入れ／長期保管

作業後の手入れ

1．手入れをする前に次の手順で準備作業を行って下さい。

(1) 走行クラッチレバーを「切」位置にして下さい。

(2) シフトレバーを「ニュートラル」位置にして下さい。

(3) ロータクラッチレバーを「切」位置にして下さい。

(4) 燃料コックを「閉」位置にして下さい。

2．作業を行ったその日の内に、まず水洗いをして機械についたほこり・木屑・泥土等を洗い落して下さい。

注　意　1

ロータハウジング下の電装部品（黒い箱）には、水をかけないように注意して下さい。

洗浄個所
(1) ホッパ
(2) 送りローラ
(3) ロータハウジング
(4) クローラ

注　意　2

エンジンまわり電装品は水洗いせず、圧縮空気やブラシ・布などでほこり・木屑・泥土等を落として下さい。

3．水洗い後は水分を良く乾燥させて、各回転・しゅう動部に油をたっぷり注油して下さい。
4．３．で注油できなかった部分に、同様に油をたっぷり注油して下さい。

作業後の手入れ

1. 各部をよく洗った後、機械の全注油、給脂（グリース）個所に、注油・給脂をして下さい。

2. 燃料タンクの燃料を次の手順で抜き取っておいて下さい。

(1) 燃料コックを「閉」位置にして下さい。

(2) ストレーナカップを左にまわして外し、ストレーナカップ内の燃料とゴミを取り除いて下さい。

(3) 燃料コックの下に、受皿等を当ててから燃料コックを「開」位置にしてタンク内の燃料を抜いて下さい。

(4) ストレーナカップを元に戻して下さい。

3. エンジンを始動し、燃料が切れてエンジンが停止するまで運転します。

4. エンジンオイルは新しいオイルと交換しておいて下さい。

5. エアクリーナは、エレメントを外し清掃後、再度取り付けて下さい。

6. １ケ月に1回程度エンジンをかけて本機を動かし、エンジンに潤滑油が行き渡るようにして下さい。

7. 各部を油布で清掃し、カバーをかけて下さい。格納は湿気、ほこりの少ない所にして下さい。屋外に放置する場合は、シートを被せて下さい。

注　意

寒冷地では、使用後必ず本機に付着した泥や異物を取り除いて、コンクリートか固い乾燥した路面、又は角材の上に駐車して下さい。付着物が凍結して故障の原因となります。

又、凍結して運転不可能になった場合には無理に動かそうとせずに凍結箇所をお湯で溶かすか、凍結が溶けるまで待って下さい。（無理に動かした場合の事故については責任を負いかねますので特にご注意下さい。）

消耗部品一覧表

品　　名	品　　番	数／台	交換目安時間 備　　考
作　業　機　関　係			
チッパーナイフ	１１１０６２２０００	2	片面２５時間
受　　刃	１１１０６３２０００	1	片面７５時間
ロータベルト	Ａ８１３Ｖ０２０７１０	1	不具合があれば交換
走行ベルト	Ａ８１ＳＡ０１００５３	1	不具合があれば交換
エンジンベルト	Ａ８１ＳＡ０１００４９	1	不具合があれば交換
電磁クラッチベルト	Ａ８１ＳＢ０１００３４	1	不具合があれば交換
ロータ軸ベアリング	Ａ７０２０２０５０００	2	５００時間
Ｆローラ軸ベアリング	Ａ７０５５２０４０００	2	１０００時間
第一軸ベアリング	Ａ７０５５２０５０００	2	１０００時間
第二軸ベアリング	Ａ７０５５２０４０００	2	１０００時間
Ｆローラチェーン	Ａ８３５００００４４０	1	不具合があれば交換
第二軸チェーン	Ａ８３４００００６８０	1	不具合があれば交換
エ　ン　ジ　ン　関　係			
クリーナエレメント	２６７－３５００３－０１	1	２００時間
燃料ホース	０８５－１０６００－００	1	１００時間
スパークプラグ	０６５-０１４０３－００	1	５００時間 (BP 5ES)
電　気　関　係			
ヒューズ　A	Ａ９９０３２１２５１０	1	全体（10A）
ヒューズ　B	Ａ９９０３２１２５０１	1	ﾊﾞﾙﾌﾞｺﾝﾄﾛｰﾙ 基板（1A）

※オイルは、オイル交換の項をご覧下さい。

トラブルシューティング

エンジンを止めてから点検してください

	こんな確認をして	こう処置する
エンジンがかからないとき	(1) 燃料が切れていないか	燃料の補給をする
	(2) 燃料が燃焼室に吸込まれているか	キャブレタ、燃料ストレーナを清掃する
	(3) エンジンの始動手順が間違っていないか	正しい始動手順でエンジンをかける
	(4) 燃料に水が入っていないか	燃料ストレーナに水が溜まっていれば、キャブレタや燃料ストレーナを外して水抜き、洗浄を行う
	(5) 長期保管時の古い燃料が残っていないか	燃料タンク・ストレーナ・キャブレタ内の燃料を抜き、新しい燃料と交換する 特にキャブレタは、メーンジェットの穴が詰まるので念入りに掃除をする
	(6) 点火プラグが悪くなっていないか	点火プラグを外し、濡れていれば、火であぶるか、乾いた布などで良く乾燥させる 点火プラグの火花間隔(0.6～0.7㎜)を調整し、それでもかからない場合は新しい点火プラグと交換する **注意** 交換や調整後は、点火プラグを元の位置に締付け、プラグキャップを確実に差し込むこと
エンジンの力がないとき	(1) エアクリーナにゴミがたまっていないか	エアクリーナエレメントのゴミを除去し、きれいに清掃する
	(2) ブロワハウジングの吸気口にゴミがたまっていないか	ゴミを除去し、きれいに清掃する
	(3) エンジンオイルが不足していないか	エンジンオイルを補給する また、オイルが古くなっている場合、新しいオイルと交換する
	(4) エンジンの回転は上がるか	スロットルレバーの遊びを減らす スロットルワイヤのズレを直す
	(5) エンジンの圧縮はあるか	点火プラグ及びシリンダヘッドボルトを締め付ける ピストンリング等の磨耗も考えられるので購入先に相談する
	材料が噛みこんでエンジンが停止したとき	付属の工具で第二軸プーリを回して下さい (P21参照)
各部に振動が多いとき	(1) エンジンが振れていないか	エンジン取付ボルトを強く締め直す
	(2) チッパナイフ外れていないか 取付ボルトが外れたり緩んでいないか	チッパナイフを正しく付け直す 取付ボルトを強く締め直す
	(3) ロータハウジングが振れていないか	ロータハウジング取付ボルトを強く締め直す
	(4) ロータ軸受けが破損していないか	ロータ軸受けを交換する

-送りローラーが回転しない-

	箇　所	原　因	処　置	ﾁｪｯｸ	備　考
1	正送り非常停止スイッチ	押されている	正送り非常停止スイッチを解除する		右に回す
2	エンジン回転	低い	スロットルレバーを[高]にまわす		
3	エンジン回転	低い（ｽﾛｯﾄﾙﾜｲﾔのｽﾞﾚ）	スロットルワイヤのズレをなおす		
4	送りスイッチ	故障している	送りSWを交換する		
5	配線コード	断線している	配線コードを結線する		
6	コントロール基板	故障している	コントロール基板を交換する		ｺﾝﾄﾛｰﾙBOX内
7	送りローラー	物がひっかかっている	ひっかかっている物を除去する		
8	電磁クラッチ	クリアランスが広がっている	ナットを締めて調整する		

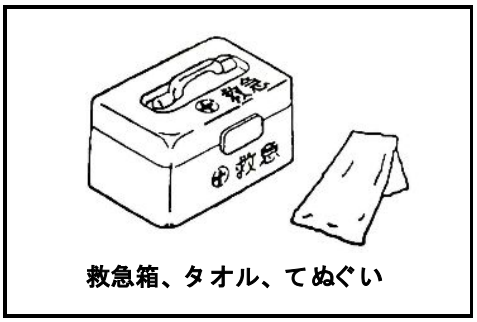
-自動制御が効かない（材料は送り込むが、自動停止せずエンジンが止まる）-

	箇　所	原　因	処　置	ﾁｪｯｸ	備　考
1	ヒューズ（1A）	切れている	ヒューズ（1A）を交換する		
2	配線コード	断線している	配線コードを結線する		キーSW-基板
3	ｺﾝﾄﾛｰﾙ基板	故障している	ｺﾝﾄﾛｰﾙ基板を交換する		

万一の事故に備えて







●作業の前に

・ 万一の事故に備え、電話機もそばの目につきやすい場所に、医療機関、消防署（救急車）の電話番号を明確にしておいてください。
特に消防署への連絡の場合、救急車のための目標地点（住所、目標となる建造物など）も明確にしておくと、的確な連絡に役立ちます。

・ 作業する場合、どこで作業を行っているかが他の人にもわかるような方法（黒板に作業現場をメモするなど）を講じてください。負傷し動けなくなり帰れない場合の対処として有効です。

・ 作業現場には、呼子（笛）を持っていってください。

●発火に対する備え

危　　険

万一、エンジンから、発火または発煙したら、ただちに、機械を停止させ、スイッチをOFF位置にして、まず消火すること。この場合、自分の身体の防御にも充分注意すること。

・ エンジンから発火または排気口以外から発煙した場合、まず、機械を停止させ、スイッチをＯＦＦ位置にし、消火してください。

・ 自分の身体を、火災その他の傷害から守るよう注意してください。

・ 草、木などに類焼しないよう注意してください。

・ スコップで砂などをかけるか、または油火災消火用の消火器で消火してください。

●ケガへの備え

・ 万一のケガへの備えとして、救急用品としては、応急手当用品の入った救急箱を用意してください。
出血をともなうケガについては、止血用に汗ふき用のタオルや、てぬぐいなども有効ですので、常時余分に作業現場へ携帯することをおすすめします。

● 応急手当

・応急手当については、地域の消防署や消防組織（消防団など）で知識、技能の普及につとめていますので、それらの講習、訓練を受け、基本的な知識を習得されることをおすすめします。

お 客 様 へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは、下記の点を明確にして、お買い求め先へお問合わせ下さい。

●ご使用機の型式名と機体番号は？購入年月日は？

型　　式	KCM90
機 体 番	
購入年月日	年　月　日

●ご使用状況は……？
（どんな作業のとき等）

●トラブルが発生したときの状況を、できるだけ詳しくお教え下さい。

●ご不明なことやお気付きのことがございましたら、販売店にご相談下さい。

販 売 店

担 当 者

Ｔ Ｅ Ｌ　　（　　）

株式会社 共立

東京都青梅市末広町1-7-2　〒198-8711　☎0428-32-6181

北海道共立エコー株式会社
札幌市厚別区大谷地東1-2-20　〒004-0041　☎011-891-2249(代)

東北共立エコー株式会社
仙台市若林区卸町東5-1-50　〒984-0002　☎022-288-0511(代)

東部共立エコー株式会社
青梅市末広町1-7-2　〒198-0025　☎0428-32-1091(代)

中部共立エコー株式会社
愛知県清須市西枇杷島町宮前1-39　〒452-0031　☎052-502-4111(代)

西部共立エコー株式会社
岡山市藤田566-159　〒701-0221　☎086-296-5911(代)

九州共立エコー株式会社
大野城市白木原5-3-7　〒816-0943　☎092-573-5361(代)

エコーレンテックス株式会社
青梅市末広町1-7-2　〒198-0025　☎0428-32-6777(代)

◎ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

© 2007 株式会社 共立　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。